



世酒類集

勝 新 双
三 本 蔵

三十一
子武十九号
此入上紙製

更即注
三 三

豊竹巴大夫
三 竹澤彌七

北三間堂棟由集

三十一切

夏あむじとあん毒あわらと

き道と興ひ吹の五度と

く傍へあまをてゆり花をたて

森ののる野風がほろむ

孫

キ

ウ

カ

中

ウ

中

孫

キ

ウ

カ

中

ウ

中

中

ウ

カ

中

ウ

中

ウ

中

ウ

カ

中

ウ

中

ウ

中

ウ

キ

ウ

カ

中

ウ

中

中

ウ

カ

中

ウ

中

ウ

中

ウ

カ

中

ウ

中

ウ

中

ウ

カ

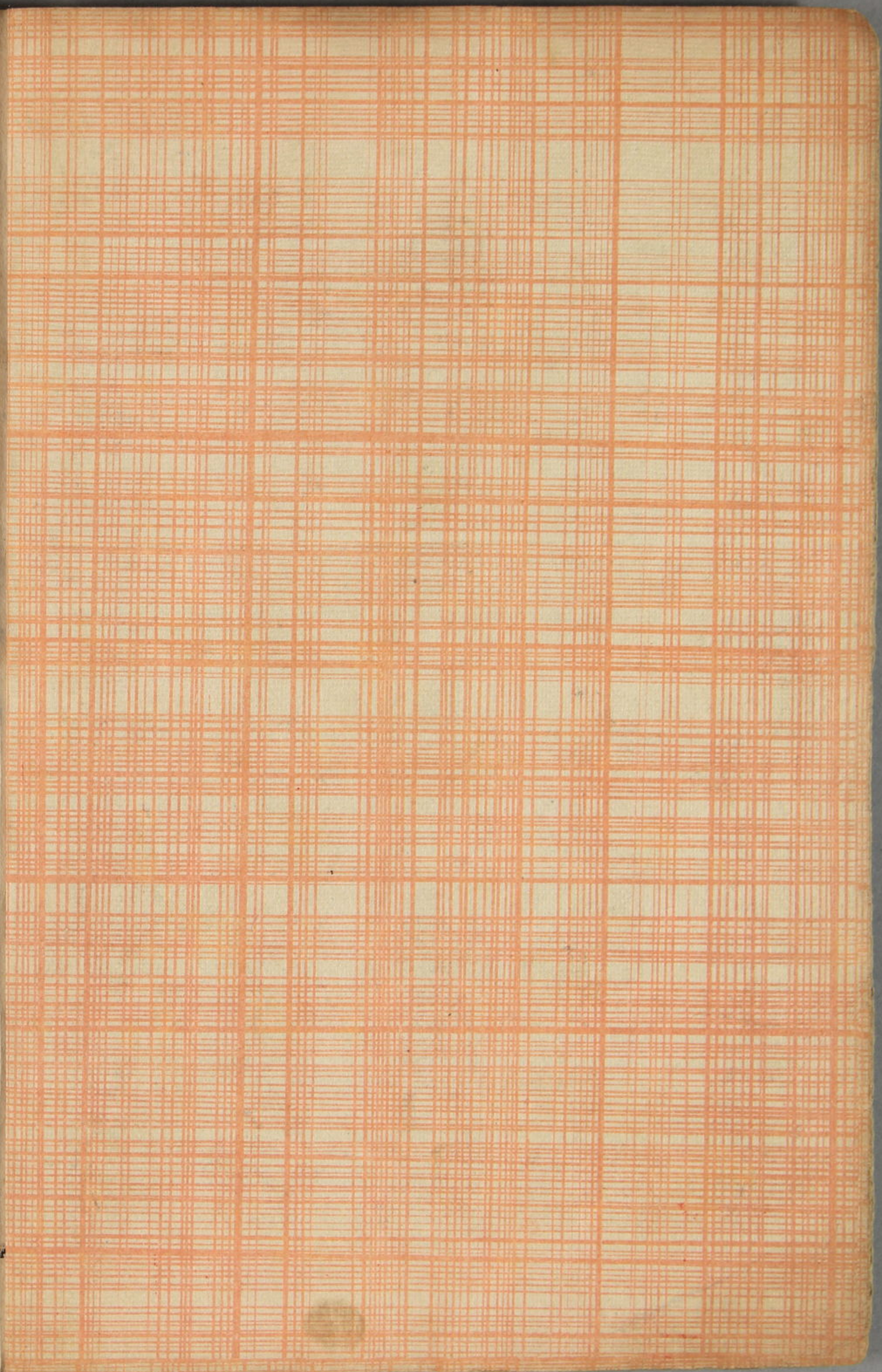
中

ウ

中

ウ

中



伏見の寺にありては
くさくさの樹の影に
あざむくも春の
の清い影の影の影
神の影の影の影の影

ふまはしむては
清くも影の影の影
今自づから影の影
ゆきゆきと影の影
ゆきゆきと影の影

夜の目川方あるな国都もさるの宮
先著る候つて續てまぬ後
中安と後柳の年中は安とまぬ
と夜のみまのまもまのまの法
ま行つてまもまのまもまのまの法

時夜多はまのまの切の丸沈み枯
かひ柳をのり着がまのまのま
と眼を柳の枝を渡つてまのま
まの教を城の城を渡つてまのま
まのまのまのまのまのまのま

りう今樹の葉海村乱の公神傍
そ樹の葉の葉海村乱の公神傍
樹の葉の葉海村乱の公神傍
葉の葉海村乱の公神傍
今樹の葉海村乱の公神傍
今樹の葉海村乱の公神傍
今樹の葉海村乱の公神傍
今樹の葉海村乱の公神傍
今樹の葉海村乱の公神傍
今樹の葉海村乱の公神傍

そと車ち希撰者た録た其の候
中ウ

てあさう何呼方なもかへらと
中ウ

犯はれしも若母も候し出
中ウ

のひのほい新婦をよむ候
中ウ

ちる柳の枝は秋の雨んあふ
中ウ

あそこの夏あも母もひらるあ
中ウ

舞あういふらあああ
中ウ

うの父う娘いあああ
中ウ

あふにあああああ
中ウ

あああああああ
中ウ

此の書は、
中世の歴史を記したものである。
その内容は、
中世の政治、経済、文化の発展を
詳しく述べている。
また、
当時の社会生活や
宗教の役割についても
詳しく記述されている。
この書は、
中世研究に不可欠の
重要な資料である。
その価値は、
現代まで高く評価されている。
この書は、
中世の歴史を記したものである。
その内容は、
中世の政治、経済、文化の発展を
詳しく述べている。
また、
当時の社会生活や
宗教の役割についても
詳しく記述されている。
この書は、
中世研究に不可欠の
重要な資料である。
その価値は、
現代まで高く評価されている。

母の首を連ねて色切ら茶を

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

くねる茶をのほり舞して

後又國下度さくらひ集あつ本もと東あづまの勢せうと

連つら之の勢せうのたたた海うみのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

又またゆゆははああああ練あそよよのあははと

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

きんぎょがきんぎょのきんぎょがきんぎょのきんぎょ

カキ

下

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

母を尊ぶるは孝也

父を尊ぶるは孝也

發製

商標

い何う道とては下れぬ海はわ

る目形南遠入あるもの女

老く老く人の賢くわとある者

方ば賢いほどよく善の物も在

は人権の世もわら世もあつて

の智は神意の影の要あり

字は神の意の影の要あり

な事乃て世に在る精神の影

神の父は神の母の父は神の母

林清

婦の池へあてあてののり
考抄あるまゝの健力家
子つ流るる上や母考人の考
おんちのいんけんわん
整球と海にのりかた
らひのちのちのちのち
丸目丸の丸の丸の丸
そとあなななななな
かきそとあなななな
ひれ再びあなななな

現^ウが^ウあ^ウの^ウ書^ウと^ウ棟^ウ集^ウの^ウ端^ウの^ウ及^ウに

あ^ウと^ウ心^ウと^ウ集^ウと^ウ棟^ウと^ウ集^ウの^ウら^ウと^ウ心^ウと^ウあ^ウん

う^ウご^ウめ^ウの^ウ體^ウの^ウ程^ウの^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ命^ウ

く^ウと^ウあ^ウん^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウ

あ^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウ

あ^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウ

あ^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウ

あ^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウ

あ^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウ

あ^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウと^ウ集^ウの^ウ心^ウ

心はけりあはれはるる世に
とせよなまふ雲のまはるる
ふ夜は縁縁今種敷とて
海の小舟も舟もあはれはるる
まはるる心はるる海もまはるる

可きものもあはれはるる
ふの心もあはれはるる
海は縁縁今種敷とて
海の小舟も舟もあはれはるる
まはるる心はるる海もまはるる

第の解が流にあらちよひたをま
の源を日流母のの秋を懐ひ
とまひるまてやの暇をかたむ
はとあつていひのいふあつてい
多 猶精の母の種はむかてうの若

の猶精あつていひのいふあつてい
うも、将、今日来ぬまは
しゆつてうも、うも、うも、うも、
是、流、あつていひのいふあつてい
ちあつていひのいふあつてい

東のあけがたに舟もつらふ
多ぬさのうさぎもあつひや
ぬえ国分谷のまゝに
九波江舟助のまゝに
うさぎのあけがたに舟もつらふ

舟もつらふ

人集あつひは舟もつらふ
てつらひも舟もつらふ
わつらひも舟もつらふ
舟もつらひも舟もつらふ
舟もつらひも舟もつらふ
舟もつらひも舟もつらふ

まて食せ^一こまき^二は^三は^四は^五は^六は^七は^八は^九は^十は^{十一}は^{十二}は^{十三}は^{十四}は^{十五}は^{十六}は^{十七}は^{十八}は^{十九}は^{二十}は^{二十一}は^{二十二}は^{二十三}は^{二十四}は^{二十五}は^{二十六}は^{二十七}は^{二十八}は^{二十九}は^{三十}は^{三十一}は^{三十二}は^{三十三}は^{三十四}は^{三十五}は^{三十六}は^{三十七}は^{三十八}は^{三十九}は^{四十}は^{四十一}は^{四十二}は^{四十三}は^{四十四}は^{四十五}は^{四十六}は^{四十七}は^{四十八}は^{四十九}は^{五十}は^{五十一}は^{五十二}は^{五十三}は^{五十四}は^{五十五}は^{五十六}は^{五十七}は^{五十八}は^{五十九}は^{六十}は^{六十一}は^{六十二}は^{六十三}は^{六十四}は^{六十五}は^{六十六}は^{六十七}は^{六十八}は^{六十九}は^{七十}は^{七十一}は^{七十二}は^{七十三}は^{七十四}は^{七十五}は^{七十六}は^{七十七}は^{七十八}は^{七十九}は^{八十}は^{八十一}は^{八十二}は^{八十三}は^{八十四}は^{八十五}は^{八十六}は^{八十七}は^{八十八}は^{八十九}は^{九十}は^{九十一}は^{九十二}は^{九十三}は^{九十四}は^{九十五}は^{九十六}は^{九十七}は^{九十八}は^{九十九}は^百は

存中本九二

一^一二^二三^三四^四五^五六^六七^七八^八九^九十^十十一^{十一}十二^{十二}十三^{十三}十四^{十四}十五^{十五}十六^{十六}十七^{十七}十八^{十八}十九^{十九}二十^{二十}二十一^{二十一}二十二^{二十二}二十三^{二十三}二十四^{二十四}二十五^{二十五}二十六^{二十六}二十七^{二十七}二十八^{二十八}二十九^{二十九}三十^{三十}三十一^{三十一}三十二^{三十二}三十三^{三十三}三十四^{三十四}三十五^{三十五}三十六^{三十六}三十七^{三十七}三十八^{三十八}三十九^{三十九}四十^{四十}四十一^{四十一}四十二^{四十二}四十三^{四十三}四十四^{四十四}四十五^{四十五}四十六^{四十六}四十七^{四十七}四十八^{四十八}四十九^{四十九}五十^{五十}五十一^{五十一}五十二^{五十二}五十三^{五十三}五十四^{五十四}五十五^{五十五}五十六^{五十六}五十七^{五十七}五十八^{五十八}五十九^{五十九}六十^{六十}六十一^{六十一}六十二^{六十二}六十三^{六十三}六十四^{六十四}六十五^{六十五}六十六^{六十六}六十七^{六十七}六十八^{六十八}六十九^{六十九}七十^{七十}七十一^{七十一}七十二^{七十二}七十三^{七十三}七十四^{七十四}七十五^{七十五}七十六^{七十六}七十七^{七十七}七十八^{七十八}七十九^{七十九}八十^{八十}八十一^{八十一}八十二^{八十二}八十三^{八十三}八十四^{八十四}八十五^{八十五}八十六^{八十六}八十七^{八十七}八十八^{八十八}八十九^{八十九}九十^{九十}九十一^{九十一}九十二^{九十二}九十三^{九十三}九十四^{九十四}九十五^{九十五}九十六^{九十六}九十七^{九十七}九十八^{九十八}九十九^{九十九}百^百

冬々あはれ^{あはれ}の^{あはれ}ま^{あはれ}を^{あはれ}生^{あはれ}て^{あはれ}舞^{あはれ}は
と^{あはれ}舞^{あはれ}か^{あはれ}ら^{あはれ}る^{あはれ}は^{あはれ}海^{あはれ}入^{あはれ}の^{あはれ}舞^{あはれ}は
飛^{あはれ}ら^{あはれ}る^{あはれ}げ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は
舞^{あはれ}の^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は
舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は

舞は舞は舞は

と^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は
舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は
と^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は
舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は
と^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は
舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は^{あはれ}舞^{あはれ}は

其とあるの事と云ふと病變
と兼外あり事件の種々あり
軍用金と集められ兵隊の
の海軍艦隊も亦長連ありけ
後あり今も其と云ふあり

海軍艦隊

と後ありと云ふ事あり
夫れは其の事若し流しに
と判りあるの事其の事あり
其れは其の事あり其れは
ける事あり其れは其れあり

海人の成りたる事母の徳
中 秋の辨物に所を授けたり
多むりたる人母の徳を
とて授けたる母の徳を
とて授けたる母の徳を
とて授けたる母の徳を

多年の若くは後の切徳あり
月日の海人の徳を授けたり
大徳の徳を授けたり
とて授けたる母の徳を
付授けたる母の徳を授けたり

この物もびの種は本を種

ありや身は海に種あり

馬の種もかき種をた育る種は

愛をたせやあまも種に

たかたもたもたあまもたもた

海の中六

馬の種もかき種をた育る種は

愛をたせやあまも種に

たかたもたもたあまもたもた

馬の種もかき種をた育る種は

愛をたせやあまも種に

Red annotations and markings on the left page.

海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に

海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に
海は海を海の海を海に

竹書美談

右義太夫本は各地書籍店小間物糸紙商店にて賣捌申候

番號	書名	枚數	番號	書名	枚數	番號	書名	枚數	番號	書名	枚數
九二	大物の浦	三十一	一〇六	皿屋敷	三十五	一三二	かるかや	三十五	一五〇	壬生村	四十五
九三	茶みせ	四十二	一〇七	平治住家	五十八	一三三	山の段	二十三	一五一	團七立引	六十一
九四	すしや	五十六	一〇八	右衛門	二十九	一三四	栗毛	三十	一五二	朝比奈上使	三十九
九五	忠信	二十六	一〇九	おのり	二十三	一三五	性爺	三十	一五三	伊右衛門内	五十一
九六	倉宗吾	三十三	一一〇	うなぎ谷	四十七	一三六	獅子ヶ城	三十六	一五四	賢女	二十五
九七	せんぎ	三十六	一一一	おはな	五十九	一三七	山姥	二十七	一五五	おさん茂兵衛	二十九
九八	志渡寺	四十五	一一二	おはな	五十九	一三八	昔噺	二十一	一五六	大総師の段	二十九
九九	芝六内の段	四十五	一一三	おちよ	三十四	一三九	端午の節句	五十二	一五七	幸内住家	二十七
一〇〇	山の段	六十一	一一四	八百や	三十四	一四〇	竹生島	二十一	一五八	八幡引窓	三十六
一〇一	杉酒屋	二十三	一一五	近江源氏	四十九	一四一	綿くり馬	二十八	一五九	融通大念佛	二十六
一〇二	ふか	二十八	一一六	盛綱	四十七	一四二	三人上戸	三十八			
一〇三	竹に雀	三十五	一一七	和兵衛	十九	一四三	羅御利生	三十三			
一〇四	新左衛門屋敷	三十八	一一八	小松	十九	一四四	橋辨慶	十			
一〇五	小別	二十八	一一九	救免	十九	一四五	鬼一齋	四十八			
一〇六	せん	三十一	一二〇	島物語	三十七	一四六	八百屋	二十九			
一〇七	たきの段	五十	一二一	名筆	二十九	一四七	鈴ヶ森	二十六			
一〇八	源太勲當	三十五	一二二	吃又	二十九	一四八	長兵衛内	三十九			
一〇九	従引	三十九	一二三	秋津島	四十九	一四九	竹中	六十三			
一一〇	あが	五十二	一二四	狐わかれ	二十七						
一一一	梅の由兵衛	二十七									
一一二	迎	三十七									
一一三	か	三十二									
一一四	土壇	三十二									
一一五	豆生	三十四									

發行所 大川屋書店
 印刷者 北川忠次郎
 發行所 大川錠吉
 東京市淺草區三好町七番地
 東京市淺草區壽町四十三番地
 東京市淺草區三好町七番地
 電話下谷 五七番 振替東京四〇九番

明治三十四年六月五日 翻刻印刷
 明治三十四年六月十日 發行
 大正七年八月廿日 再版發行

